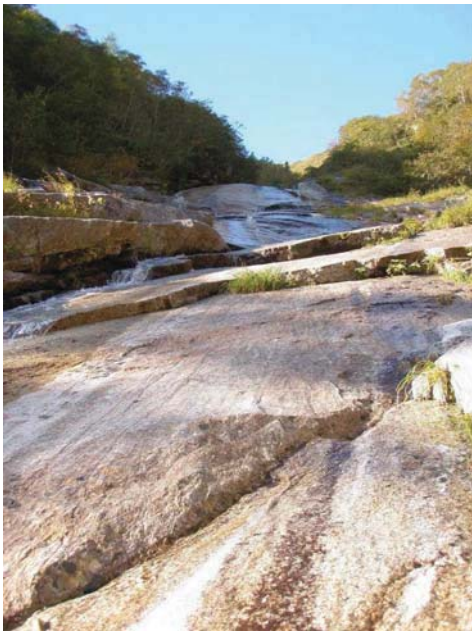


最初?の逆くの字の滝

- ・水流を直登 念のためロープを使用



スラブ滝（逆くの字の滝?）

- ・右から登る 念のためロープを使用

右の草付きを登る

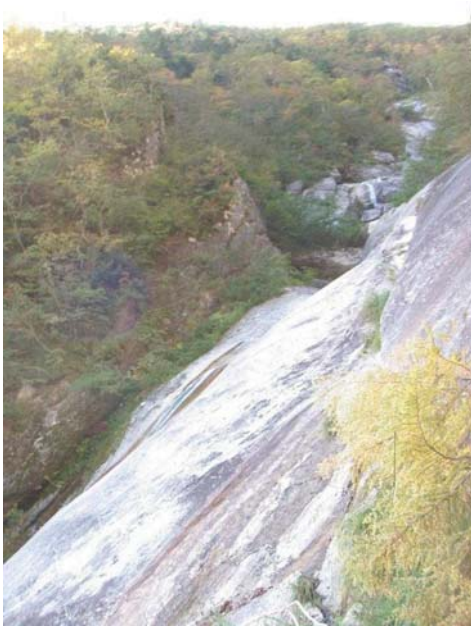
7時00分





スラブ滝の上部

- ・右の草付クラックを登る

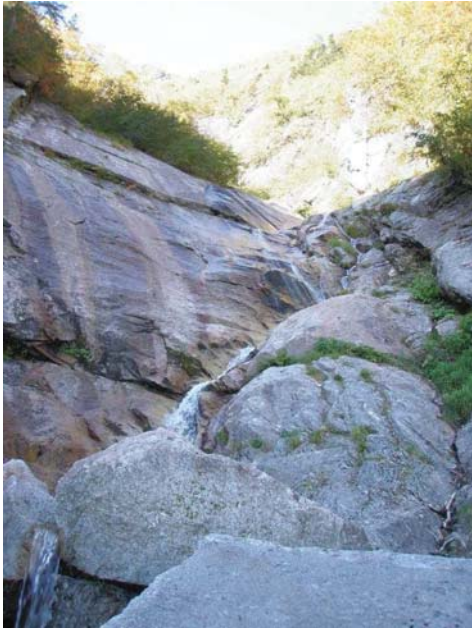


← この辺りから、奥に烏帽子沢が見えるようになる
(左の写真の右奥に見える沢)



積み木のような滝 8時00分

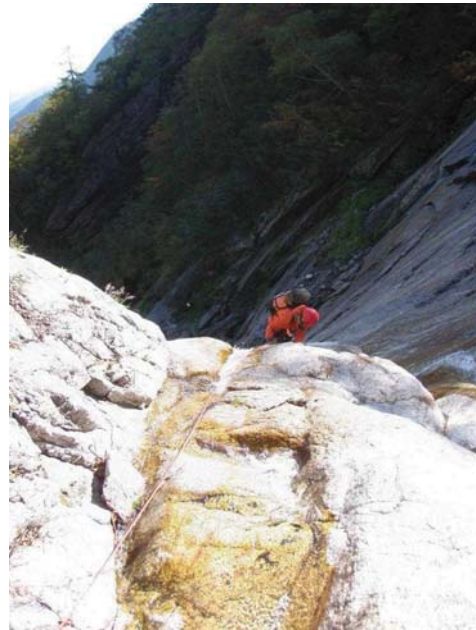
- ・ゴツゴツしており、簡単に登れる
- ・スラブ滝を越えると、一旦滝の連続帯を抜け、幅広で岩が積み木のように重なった滝に出る
- ・どこまでが奥千丈の滝と呼ぶのかわからないが、最後に出てくるトユ状の滝までとするとこの辺りは中間になる



2つ目?の逆くの字の滝

- ・直登 ロープを使用

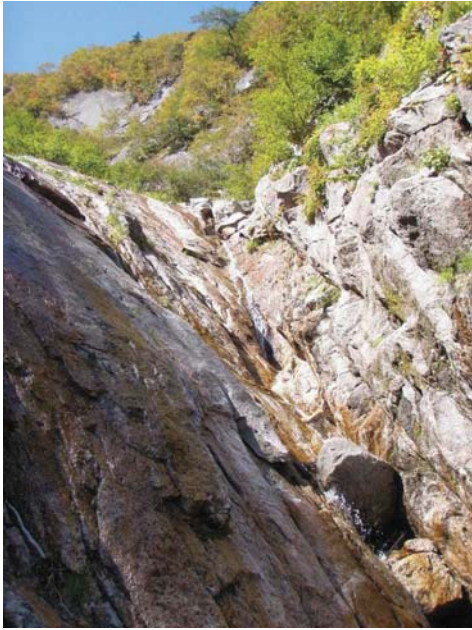
滝の抜け口 →



さらに上に続く3つ目?の逆くの字の滝

- ・水の中を登る 簡単 8時50分





奥千丈の滝群の最後にあるトコ状の滝

- ・ 滝の流れの左のスラブを直登
9時10分～9時50分
- ・ ルートははじめ水流を上り、途中から水流の左のスラブを登る
- ・ 残置2本あり
- ・ 滝を越えてからは、左に追いやられるので、適当に右へ戻り、立木で確保した

滝の上にいる W さん



Wさんが、フォローで
スラブを越えたところ →

この後、終了点にて小休止
9時50分～10時00分

休憩後、そのまま沢の左側を詰め上がったが、登り過ぎて沢に降りられなくなり、15m程の懸垂で沢に降りたが、約50分のロスタイムを食ってしまった



小休止 11時20分～11時35分

- ・ 15m程の懸垂で沢に降り、さらに沢を右へ渡ったところで休憩を取った
- ・ こちらには踏み跡がはっきり付いていた



3段60m滝（奥の滝）の遠望

- ・休憩後、右のガレを10分程、上り詰めると奥の二俣と3段60mの滝が見えてきた

11時45分

- ・奥の二俣は、一旦右俣に入り、その後、左に出て巻き道をたどることになる

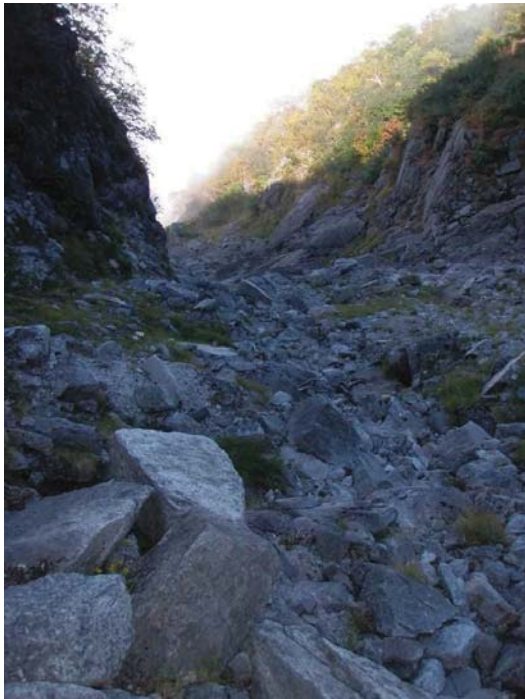


- ・右俣は急峻でチョックストーンあり



3段60m滝（奥の滝） 13時10分

- 巻き道は、3段60mの滝の下に降りることができた。しかしここから先、沢の登攀に時間を要すると判断し巻道に戻ることにした
- 巻道は大石の壁を避けてかなり右に大きく高巻いていた
- この先の巻き道も明瞭であったが、ハイ松が少しうっとうしかった
- 沢全体を通してブッシュ漕ぎはこの箇所だけであった



- 3段60mの滝を大きく巻いて再び沢に降りたところ。踏み跡は明瞭。14時20分
- 左の写真は下部を写したもの
- これより右寄りに源流部を詰め上がる
- 踏み跡を丁寧にたどっていくとブッシュ漕ぎはなかった



小休止 14時50分～15時00分



最後の稜線直下の登り